

会 議 録

会議の名称	第8回 飯塚市文化施設活用検討委員会
開催日時	令和5年1月30日(月) 15:00~17:15
開催場所	イイヅカコミュニティセンター 2階 展示ホール
出席委員	竹川委員長、河副委員長、徳永委員、瓜生委員、田中委員、長曾我部委員、 榎本委員、大石委員、寺田委員、田上委員、眞鍋委員、奥田委員
欠席委員	志村委員、福丸委員、早川委員、
事務局	武井教育長 【教育部】 山田教育部長 【文化課】 坂口課長、久原文化施設整備担当参与、吉田文化施設整備推進係長、西田 【商工観光課】 小川課長、柴田課長補佐、田中観光係長
会議概要	1 開会 2 議題 2-1 最終答申について 3 市長あいさつ 4 閉会
会議資料	資料1 《最終答申案》嘉穂劇場等文化施設の活用の方策に関すること
公開・非公開 の別	① 公開 2 一部公開 3 非公開 (傍聴者0人)
その他(非公 開理由等)	

会 議 録

会議内容	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>2-1 最終答申について</p> <p>●事務局より資料1について説明</p> <p>この資料は前回の委員会における委員の意見を踏まえて、答申案としてまとめたものである。具体的には、前回素案に対し修正や追記を行っている。この最終答申案を作成するにあたり、できるだけ委員の発言を取り込む形で作成しているが、今回の会議では、委員から活発な意見をいただき、最終的な方針をまとめていきたい。</p> <p>【質問・意見等】</p> <p>① 答申の内容について</p> <p>委員：今後、嘉穂劇場の保存活用計画策定の中で、価値を構成する要素などの意匠や構造を特定する作業を行っていくと思うが、今回の答申とその保存活用計画との間に矛盾が生じない様に、今後作成される計画とも整合性を取ってほしい。</p> <p>委員：劇場内の文化的価値を有する資料の整理と展示に、多言語化対応を追加していただきたい。答申にも頻繁に出てくるが、海外の観光客をたくさん呼ぶということで、インバウンド誘客を図るために、多言語化が不可欠ではないか。また、観光客の旅行消費額を増加させるためにも、グッズのような商品開発と体験プログラムの開発も追加してほしい。</p> <p>委員：地域の方と一緒にあって同じゴールを目指し、嘉穂劇場が変わる。新しい形で運営されていくということをチャンスと捉えて、一緒に地域を盛り上げたいという思いがあるので、行政としてもしっかりと進めていただきたい。</p> <p>委員：山鹿市では市内の小学6年生が八千代座で芝居を行っている。嘉穂劇場でも、小学生の芝居体験をぜひ検討していただきたい。</p> <p>委員：劇場の経営では、平日にどうやって誘客するかがとても難しい。近隣のイベントなどで、必然的に周辺が賑わえば劇場の売り上げも上がるがあるので、嘉穂劇場周辺でも平日に飲食が楽しめる</p>
------	--

会 議 録

	<p>るような場所をつくるとか、東京のような都市部のエンターテイメント施設と連携してツアーを組むなどしたら、いろいろ良い効果が出るのではないかと思います。</p> <p>副委員長：嘉穂劇場を再開した時には集客が期待できるが、それをいかに継続させるかということが難しくも大事なことである。そのためには連携できる組織作りがとても重要で、嘉穂劇場は大型商業施設よりも、周辺商店街と一緒に頑張っていくべきで、そのためには商店街と定期的な問題意識を共有して、協力できるような体制を構築していかなければ、嘉穂劇場の存続は難しいかもしれないと思っている。</p> <p>委員：嘉穂劇場を取り巻く状況はとても厳しいと思っている。一つは令和5年度の文化庁の予算が大幅に削減されること。もう一つは他劇場をみても興行収益が非常に厳しいこと。そのため嘉穂劇場と飯塚市民が一緒になってやっていくのは相当な覚悟を必要だと感じる。やはり市と市民の役割分担をしっかりと考えていくことが必要ではないか。</p> <p>委員：地域住民はイベントなどに参加したり、小中学生は授業などで嘉穂劇場のことを知ることができる。しかし大学生においては、芝居に縁がない人がほとんどで、嘉穂劇場を知る機会がほとんどない。大学生など若年層が知るためにはSNSなどが有効ではないか。音楽アーティストや芸能人が嘉穂劇場で発信すると、その方々のファンには届くのではないか。</p> <p>委員：情報発信の強化が必要ではないか。嘉穂劇場に関する広告だけではなく、公演の様子などを発信すれば嘉穂劇場のイメージが湧きやすいと思うので、そのような昔の映像などを発信してもらいたい。</p> <p>委員：飯塚市には大学があるので、卒業式の際のはかま姿などで、嘉穂劇場の前で写真を撮るということが定着すれば、学生には一生の思い出になるのではないか。そのような開放の仕方をぜひ取り入れてほしい。</p> <p>委員：この委員会でいろいろな方の意見を聞いて、嘉穂劇場は芝居小屋として、また教育の場としても重要であると思った。嘉穂劇場を中心とした生涯学習を行うと、子どもたちの中にも嘉穂劇場が残</p>
--	--

会 議 録

るし、それが嘉穂劇場や飯塚市の歴史を知るものすごく貴重な体験だと思うので、教育の場としての嘉穂劇場を期待したいと思う。また、これから先は地元と行政が一緒になってつくっていかねばならないという思いである。

委 員：文化財のバリアフリー化については難しい問題である。バリアフリー化を推進するのはよいが、それがすべてではないのではないか。人のやさしさに期待する嘉穂劇場でもよいのではないか。

委 員 長：昔から都市のステータスや文化度の尺度は劇場であった。やはり飯塚の文化力を見せるのが演劇であったり芸能であったと思う。コロナ禍では、厳しい状況でも何かしら知恵を編み出して、文化をつなげるということに心新たにした。嘉穂劇場は「娯楽の殿堂」から「文化の未来の殿堂」になると思っている。嘉穂劇場の再開を期待している。

3 市長あいさつ

飯塚市長：委員には飯塚市文化施設活用検討委員会委員に就任いただき、会議の参加や議論いただいたことに感謝申し上げます。また、委員長及び副委員長においては会議運営に尽力いただいたことを重ねて感謝申し上げます。嘉穂劇場の価値、今後の活用方策など行政の発想に無かったようなご提案をいただいたので、嘉穂劇場の未来が楽しみとなった。今後は答申にあわせて嘉穂劇場の改修の方向性を定めていくが、クラウドファンディングの結果でも分かるように、嘉穂劇場への気持ちを全国からいただいた。市民の方に喜んでもらえるとともに、市外の方も来たいと思えるように、嘉穂劇場とコスモスコモンとの融合も図りながら、しっかりとした運営を行っていきたいと思っている。委員の皆様には引き続き指導をお願い申し上げます。皆様の長期にわたる審議、助言について感謝申し上げます。

4 閉会